

4万種／1年間

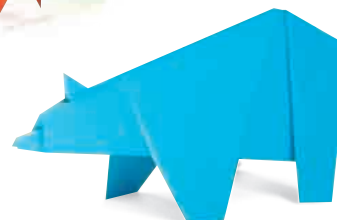
開発や乱獲、地球温暖化の進展、里山などの手入れ不足による自然の荒廃、外来種による生態系のかく乱などによって、生物の多様性は、現在、急速に失われつつあります。その速度は過去と桁違いの速さで、1年間に4万種程度が絶滅していると言われています(※)。

生物多様性は、人間も含めた多くの生物が、バランスを保ちながら関わり合い、様々な環境に合わせて存在していく生命のつながりです。水や酸素や食べ物も、そのつながりがなくては得ることができません。生物多様性の損失は、生態系のバランスだけでなく、人間が自然から受けていた様々な恩恵を失うことにつながります。

命の共生を未来へつなぐために、今、私たちにできることは――。

※平成22年度版環境白書より

生物多様性



Contents

特集 「生物多様性」

巻頭インタビュー

3

MISIAさん

環境問題も貧困も紛争もない

未来への想いを歌い続けたい

生物多様性条約COP10の成果とこれからの課題

6

環境省生物多様性地球戦略企画室 鳥居敏男さんインタビュー

「生物多様性交流フェア」での活動から

8

生物多様性条約市民ネットワーク(CBD市民ネット)

ラムサールセンター「KODOMOバイオダイバシティ」

WWF(世界自然保護基金) ジャパン

助成団体レポート

10

(特活)「環境・持続社会」研究センター(JACES) 専門領域をもったNGOとして、社会の穴埋めをしていきたい

感謝状贈呈者の活動「ほし」「そら」「みどり」

12

会員の皆さまと一緒に、青く美しい地球のためにできること

(株)東急スポーツオアシス「オアシスブループロジェクト」ほか

地球環境基金をご支援くださった方々

14

地球環境基金のサポーター

16

「宝くじの夢」と「環境への貢献」という2つの期待が込められた定期預金 東京ベイ信用金庫「ジャンボ宝くじ付夢定期eco」

表紙

(特活)黒潮実感センター

▼ <http://www.orquesta.org/kuroshio/>

高知県西南端の柏島において、アオリイカの人工産卵床を設置し、イカの産卵場を確保するとともに、生物多様性の保全を図る。

